

みんなでスマイルシティを創りたい

- 意志あるところ(will-being)に希望あり -

平成30年(2018年)からの12年を計画期間とする第二次山陽小野田市総合計画は、前期(平成30年、2018年～)、中期(令和4年、2022年～)を経て、いよいよ令和8年(2026年)からの後期基本計画で総仕上げとなります。前期計画後半から中期計画前半にかけては、新型コロナウイルスへの対応が喫緊の課題として迫る中、平時の行政運営が困難な状況にありましたが、「協創」の理念を皆様と共有したことで乗り越えることができました。改めて感謝申し上げます。

国が令和7年(2025年)6月に閣議決定した「地方創生2.0基本構想」には、以下のことが書かれています。

- ・当方は国全体の人口・生産年齢が減少するという事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じそして地方を元気にする
- ・(人口減少を受け入れた上で)人口増加期に作り上げられた経済社会システムを検証し、中長期的に信頼される持続可能なシステムへと転換していくことが求められる

人口減少、東京一極集中の解消を目指した「地方創生」からの転換が提唱されている箇所です。本市の「協創によるまちづくり」が国の考えを先取りし、資源制約下のこれからの行政運営の在り方として一つの方向性を示していることを実証した形となりました。人口減少対策は講じつつも、「いかに『持続可能なまち』をつくるか 育てるか」という観点に重きを置き、地方創生2.0の取組を進めていくことが地方自治体の使命であることを改めて認識した次第です。

私は「持続可能なまち」とは、市民の皆様がまちの未来に「希望」をもち、笑顔で日々暮らしていける「まち」と考えます。そして、未来に向けての「希望」を支えるのは、自ら考え、行動を起こす「意志」だとも考えます。Well-beingという言葉が最近、盛んに使われるようになってきました。身体的、精神的、社会的に充足している状態を指すと言われていました。しかし、今の山陽小野田市に大切なのは「良いこと(well)が起きることを待つのではなく、自分の意志(will)をもち状況をよりよくしていこう」という考え方の共有ではないかと考えます。日本初の官民連携施設「Aスクエア」をはじめとする山陽小野田市LABVプロジェクト、市内11校区において地域自らが地域運営を目指す地区運営協議会(RMO)、本市のファンを増やしシビックプライドの醸成を図るスマイルプランナー制度に代表される「協創」を象徴する事業では、既に多くの方々が市のため、地域のために汗を流しておられます。そのように現状を未来に向けて変化させていこうとする能動的、自律的な「意志」のことを「well-being」に比して「will-being」という言葉で表現されるようになっていきます*。

後期基本計画においても「協創」を根幹に据えることには変わりありません。加えて「協創」を更に進化、深化させていくために「will-being」の考え方を提唱したいと考えます。「will-being」をより多くの方々と共有し、未来に向けての希望ある「活力と笑顔あふれるまち スマイルシティ山陽小野田」の実現を目指し、後期基本計画の実践にまい進してまいります。引き続き、皆様方の力強い御支援を賜りたく存じます。よろしく願いいたします。

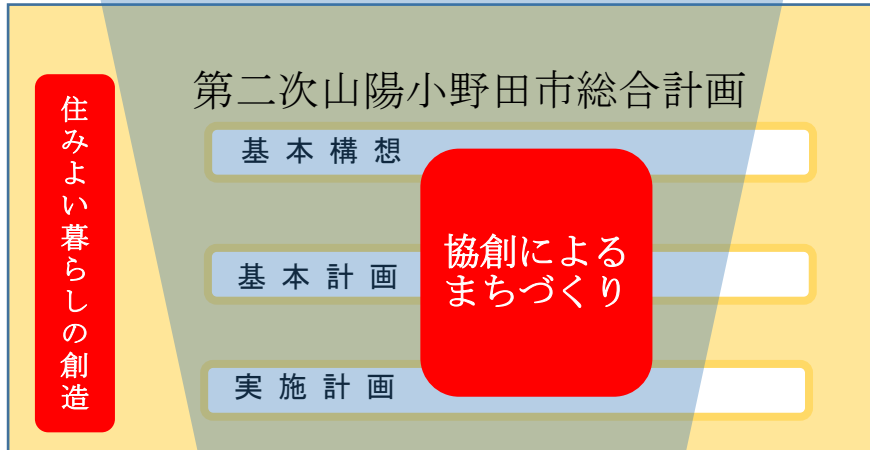
令和8年(2026年)3月

山陽小野田市長 藤田剛二



* 出典：一般社団法人 コーティング心理学協会 <https://share.google/OgA1CB6WkCgPdspGI>

市民 各種団体 学校・大学 企業 市議会 市



福祉・防災・労働・産業・観光・環境・地域づくり・教育・・・

地域課題の解決



未来に向けての

希 望

持続可能性

活力と笑顔あふれるまち
「スマイルシティ山陽小野田」